

関連項目 教育活動プラン⑤

「かさだのじまん」づくりで自信をもたせる

目的

本校の児童の多くは、素直で何事にも真面目に取り組み、友達にも優しく接することができます。反面、自分の意志で取り組むことや、自分の良さに自信を持つことについては、十分ではないようです。そこで、児童の発想で取り組みせ、良さを自覚する場を設定することにしました。

内容

● 「かさだのじまん」づくり

本校の児童は、笠田小学校の良さをどのように感じているのでしょうか。真面目で、優しい子どもたちですが、具体的な良さに気づいていないのではないかと感じることもあります。このようなことから、取組が始まりました。児童自ら取り組みせ、目的が達成できれば、玄関前の掲示板に書きます。児童とともに良さを見つめ直し、達成を喜び合うようにしました。

● 委員会・児童会での取組「かんぺき手洗い」と「3人以上あいさつ」など

本校では、委員会から毎月の生活目標について呼びかけがあり、全校生で取り組んでいます。しかし、全校生がこの目標を達成したと感ずることはなかなか難しいようです。そこで、ほぼ完全に達成したことについて、「かさだのじまん」として認定していくことにしました。はじめて、達成できたのは、保健委員会が呼びかけた「手洗いをしよう」でした。そこで、これを「かさだのじまん」として認定し、児童とともにがんばりを自覚させました。続いて、取り組んだのは、児童会による「あいさつ運動」でした。これは、児童会が学校の課題を考え、自主的に取り組んだものです。全校生が、がんばれば達成できるめあての基準を考え、「毎日3人以上あいさつしよう」として全校生に呼びかけました。1週間、毎日放送でも呼びかけながら、あいさつを促し、全員達成できれば、「くす玉を割ってお祝いしましょう」と、取り組みました。その結果、みごと全員達成できることができたので、約束どおり全校集会で、達成のくす玉を割ってお祝いをしました。これも、2つ目のじまんとすることができました。

● やってみよう！を広げる「大津池ボランティア」「図書の本運びボランティア」など

学校のすぐ横に、大津池があります。宇賀神社の前に広がる大きい池ですが、ゴミや空き缶などが見られます。そこで、児童会から全校生に呼びかけて、希望者によるボランティアを行いました。

また、図書委員会で本を運搬するため、ボランティアを募って行いました。小さなことでも、「やってみよう！」に少しずつ変える取組を続けています。このことが、「かさだのじまん」につながってほしいものです。



成果

「かさだのじまん」づくりをとおして、児童自身の手で取り組むことの意味を児童や教師自身が自覚できたのではないかと思います。自分たちの良さを、文字などに視覚化し、常に目にふれることが大切だとわかりました。次年度に向けても、この小さな取組を続けていきたいと考えています。